

平成28年度

岩手県立大野高等学校 第2回学校評議員会議事録

日時 平成29年 2月23日(木) 16:00～17:00

場所 岩手県立大野高等学校 応接室

参加者 学校評議員5名、PTA会長、校長、副校長、事務長、総務担当者

1 開会

副校長

今回はPTA会長にもおいでいただきました、宜しくお願いいたします。

2 校長あいさつ

学校長

今回はPTA会長もお招きしました。学校に対する意見などを忌憚なく話していただきたい。本会議は学校の運営などについて、意見を頂く場であり、それらの意見を今後の学校経営に反映させるための会議です。会議録は公開いたしますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

3 学校概況説明

校長通信「飛翔」より抜粋

- ・高総体結果
- ・成28年度大野高校体育祭
- ・大野高校介護初任者研修について
- ・里山整備について
- ・吹奏楽部地区・県大会について
- ・第98回高校野球選手権大会結果について
- ・北奥羽ナニャドヤラ大会について
- ・第43回東北総合体育大会(ミニ国体)卓球女子団体戦全勝優勝
- ・第1学年震災学習について 被災地田老へ(県の復興担い手事業)
- ・里山整備報告会について
- ・希望強いわて国体卓球(奥州市へ全校応援)について
- ・大野高校文化祭について
- ・10月の保健講話について
- ・PTA進路講演会について
- ・介護職員初任者研修修了式について
- ・大野高校及び種市高校合同芸術鑑賞科について。
- ・新人大会結果について
- ・修学旅行について
- ・地元企業見学会(1年生)について
- ・募金活動について
- ・災害義援金について
- ・大野高校振興協議会について
- ・しごとスクエア in 久慈について

・第24回久慈地区総合文化祭について

平成28年度第3学年進路内定状況について

昨年度に続き、進学・就職は100%進路達成しました。

4 平成28年度 学校経営について

生徒一人ひとりを掌握した指導、生徒一人ひとりの進路実現・自己実現、全職員の叡知を結集した指導、防災教育

学校評価アンケートの一部訂正、授業評価アンケートの全面改定をおこなった。

その結果を提示する。

学校評価アンケートは、教員のチームワークがとれているという項目が落ちてきている（約10%）そのため、ワークショップを教員間で開き、学校の現状に対する共通理解をはかり、連携を深めた。

最近、授業の評価方法や、授業のやりかたが変ってきている。そのため、学習のやりかたや、評価の観点も変わってきている。

個に応じた教育については、ここ数年より低下している。前述のワークショップの中で、教員から「個々の進路について指導していると手が回らない」という意見がでてきた。

多忙化が要因としてあげられる。

学習時間については、数値は伸びてきているが、成績や家庭学習の提出物などの実績と結びついていない。

明るい学校作りについて挨拶は例年通り行っているが、スマホを巡るトラブルが増えてきている。

自己有能感の醸成については、行事などを通して育成したい。

「生徒に寄り添う姿勢」は、昨年度の「アドバイスする」という質問を「親身になって話を聞いてくれる」に変えた。

情報提供については、今年度は紙媒体で校長通信飛翔を毎月発行している。

■課題に対応した今年度の取り組みについて

- ・マツタケ狩りについて、今年度も補助金を頂いて実施できた。今後町の協力も頂く予定。
- ・メール配信システムについて、生徒は99%保護者は40%ほど。また、それらを確認した割合は40%
- ・生徒数は大幅減少。

大野高校の定数は来年80名、平成31年（新元号2年）からは40名、30年は種市が普通科1クラス減、31年大野1クラス減、さらに32年は久慈東高校と久慈工業高校が統合される。

- ・外部団体からの資金援助について

おおのつばさ会の補助は平成29年度までの予定。なんとか継続をお願いしたいところ。

・アクティブラーニングが時代と共に求められ、それに対応する心がけとしてプロジェクターなどの配置をおこなった。

■大野高校自己評価について

- ・教育方針を分かりやすくするために、学校経営計画もう少し簡易化する。
- ・学習指導について、生徒が授業がわかるという意味では県の目標レベルは上回っているが、岩手県でおこなっている基礎力確認調査は高1は厳しいが、高2で上昇している。これは、1年次の手厚い指導や、2年次のクラス分けが効を奏している。本校の割合は、就職コースが多く、そのアンバランスを解消するために、就職予定者も進学コースに入れることがある。それによって、資格の取得に不利にならないようにしているが、それが適切であるかが課題。
- ・家庭学習について、1時間以上が高2で32%と非常に学習時間が少ない。つまり6割強が1日1時間も学習していない。
- ・授業見学については、引き続き活発にしていきたい。
- ・校務支援システムについては、成績評価が大きく変る。授業態度、レポート、発言が総合的に判断され、これまでの考査重視のものから、観点別評価というものにかわるが、評価項目が多岐にわたるため成績処理が煩雑になり教職員の多忙化に拍車を掛けている。

・生徒の学力について

就職レベルに達していない生徒もいる。

・進路指導、キャリア教育について

大学指導を初めとした進学指導について、個別指導に切り替えていきたい。

・生徒指導について

L I N Eによるトラブルが発生した。情報モラル教育の強化が課題。

・行事ボランティアについて

生徒数減になり、学校規模にあった行事の精選をおこなった。

・発達障害の生徒について

学校内で発達障害に分類される生徒もいる。多様な個性をもつ生徒に対する接し方の研修会などを学校で実施している。

・歯科について

虫歯が他校に比べ多いのに、治療する生徒が少ない事が課題

・PTAについて

地区別学校説明会の持ち方は検討が必要。

<質疑応答>

■学校評議員Aさん

- ・何か子ども達の間でトラブルがあった内容を教えて欲しい。

<学校回答>

・今現在SNS関係が多い。今後は情報モラル教育に力を入れたい。また、高校にはいるとスマホを購入する生徒が増えている。それが、学習時間に影響が出ている。インターネットやスマホの使用時間が1日あたり4時間以上使う生徒が増えている。また、生徒間で返事が「来た」「来ない」でずっと待つ子もいる。

■学校評議員Aさん

(御意見) 親の立場として、生徒指導は厳しくやってもらいたい。宜しくお願いします。

■学校評議員Cさん

- ・介護職員の研修で5名の合格ということだが、就職に結びついているか。(ストレート就職合格など)

<学校回答>

- ・ストレートに結びつく生徒はいないが、最終的に介護職に就くであろう生徒はいる。

■学校評議員Cさん

今年は国公立の合格数が少ないように思える。

<学校回答>

・本人の希望に添ったものである。また、公立が1名。10倍の倍率を超えて入ってくれた。残りは私立。

■学校評議員Cさん

進学を目指す子は進学校に入れるというのが今の世界かもしれないが、これからは地域に根付いた学校の魅力を強くしていかないと、どんどん生徒数が減っていく可能性がある。

<学校質問>

- ・学校の魅力という点で進学・就職について魅力を伺いたい。

■学校評議員Cさん

(御意見) 希望する人には答えていくという体制が必要だと思う。

■学校評議員Aさん

- ・最近先生が忙しいと聞くが。

<学校回答>

- ・大変なのは当たり前。でもそれが当然だからと見過ごす理由にならない。

■学校評議員Aさん

(御意見) 小規模校であれば大変なのはわかるが最近それをひしひしと感じる。

■学校評議員Dさん

(御意見) 歯科治療に関しては、小中連携で重点的に取り組もうとしている。中学校に関しては来年度の重点項目に挙げている。また、今年度もある程度の成果が上がっている。また、中学生段階までは治療が無料になっている。高校でもそういった形で指導していただきたい。情報モラルに関しては、中学校ではなく、小学校段階から指導が必要。小学校を4校訪問して、平日で4時間以上使っている中毒状態の小学生がいる。この状況は異常だと思う。

■学校評議員Eさん

(御意見) たまたま昨日小学校のPTAがあった。SNSの方はやっている子がいると言うことを聞いてはいたが、SNSによってグループ化が起こることにより、いいことをしている子(使用を抑制している子)が引け目を感じなくてはいけないという現状があることは危惧しなくては成らない。

飛騨の事例を参考に答えるが、過疎地域において、人口を増やしたいとなったとき、そういう状況で、漠然と人を集めるのでは無く、ピンポイントで必要な人を増やす方が必要である。久慈平荘の初任者研修のような事例は県内初としてとても魅力になると思う。そのため、研修は1回きりではなく、これからも発展して行って欲しい。

■学校評議員Bさん

(御意見) もっと大野中からの入学が増えて行って欲しい。

■学校評議員Dさん

(御意見) 最近は選択肢が広がり、千葉学園や看護系を目指したり、盛岡に行きたいという子が増えてきた。明確な目標をもって外に出たがる生徒が増えてきている。

<学校質問>

大学希望者や高看受験希望者を合格させるというのは使命だと考えている。その反面、学び直しを重点化するというのはどのようにお考えですか。

■学校評議員Cさん

(御意見) 学び直しは大学でも増えてきている。全体的に学習をする習慣・意識まで問題が広がる。中学校でもそのような状況があると思う。中高連携をはからないとならず、高校だけの問題ではない。学習する習慣づけというのは言うのは簡単だがそれをどうするかが課題。

■学校評議員Aさん

- ・入学生にレベルの差を感じることはあるか。

<学校回答>

入学時に学力到達度診断がある。そこできちんと学力を測り、個別指導などの計画を設定しなくてはならない。

■学校評議員Cさん

- ・来年度新入生のクラス分けはあるのか。

<学校回答>

あります。

■学校評議員Cさん

(御意見) そうであれば、一人一人に接する時間が増える。そういう点を生かしてプラス思考で指導していくのはどうか。たとえば、進学コースが少なくてもよく、それで指導を続けて欲しい。

■学校評議員Cさん

- ・進学よりも就職する方が難しいのではないか。

<学校回答>

試験など、企業によってはハードルを設けるところもある。そういった意味では難しいところもあるかもしれない。

■学校評議員Cさん

- ・大野高校に特別支援員はいないのか。

<学校回答>

・高校でも32名の配置がある。そのためには発達障害などの診断名がきちんと出なくてはならないが、本校では現在配置を希望していない。

■学校評議員Cさん

- ・親が認めるか認めないかという点が大きいのでは。

<学校回答>

それも要因としてあります。

主たる質疑応答については以上のとおりでした。